

難治性白血病の新規治療薬の開発に関する研究

① 共同研究・産学連携への意気込み

我々は難治性白血病特異的融合遺伝子をドキシサイクリン存在下で選択的に発現する細胞株を複数樹立しています。この細胞株を用いて、融合遺伝子の機能を特異的に抑制する化合物を用いた新規治療法を確立したいと思っています。

② 想定される連携先・移転先

低分子化合物ライブラリーのスクリーニングが可能な施設と連携し、白血病特異的融合遺伝子の機能を抑制する化合物の同定を目指したいと思っています。



准教授
今村 俊彦

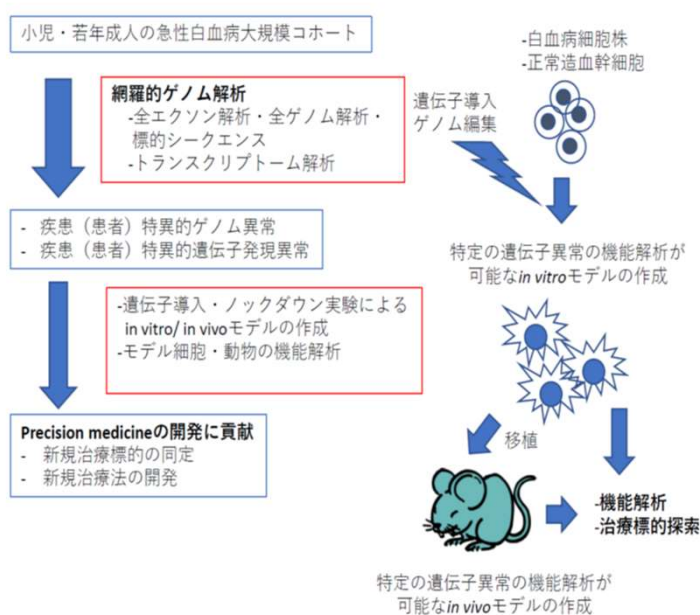
キーワード

白血病、ゲノム異常、キメラ遺伝子、低分子化合物、分子標的薬

研究内容

小児期および若年成人発症の**急性リンパ性および骨髄性白血病**の大規模コホートの網羅的遺伝子解析（全ゲノム解析およびトランスクリプトーム解析など）により得られたゲノム異常について、ウイルスベクターを用いた遺伝子導入や、ゲノム編集技術を用いたノックダウンを行い、*in vitro*および*in vivo*モデルを作成し、その機能を解析し、治療標的の探索を行っています。

特に、**疾患特異的な融合遺伝子**が制御するシグナル伝達経路を明らかにすることによって、難治性急性白血病の新規の治療法の開発を目指しています。



最近の成果

Tomii T, Imamura T, et al. *Leukemia* 2020

